

信念と情熱、スピード感を持って事業に取り組みと強調する米沢会長（14日、沖縄県宜野湾市）



業界発展、活性へ結束

全日電工連 全国大会を開催

全日本電気工事業工 業組合連合会（米沢寛 会長）は14日、第32回 電気工事業全国大会を 沖縄県宜野湾市で開催

した。大会メインテー

マは「ゆいまーるの心

を琉球の風に乗せて・ 輝く未来の電気工事業

テーマは「琉球（うち な）で語る電気工事 の未来、美ら海（ちゅ らうみ）越えてつな がるゆいまーるの心」。全

式典であいさつした 米沢会長は「電気工事 業界は電気を安全・安 心に届けるという社会 の負託に答えなければ ならない」と強調した 上で、「皆さまの役に立 つ事業を信念と情熱、

スピード感を持って取 り組む」と述べた。式 典の前には「組合活性 化研修会」を初開催。 ①組合力強化②業界理 解促進③組合員・会員 増強、メリット提供④ ①の3ジャンルで、優 良事業工組の事例計9 件を発表した。各ジャ ンルの発表後には質疑 応答も行われた。

式典では、前日に実 施した意見交換会で集 約した意見を発表。第 3回優良事業工組表彰 も行われ、滋賀県電気 工事業組合の「給付 型奨学金交付事業」が 金賞を獲得した。銀賞 には北海道電気工業業 工業組合青年部、宮崎 県電気工事業工業組 合、銅賞には秋田県電 気工事業組合、福岡 県電気工事業工業組合 青年部、特別賞には埼 玉県電気工事業工業組 合が選ばれた。

とを誓った。

式典の最後には「人 材確保・高度技術者育 成強化」「信頼される 街の電気ドクターを目 指す」「業界の発展・ 繁栄に向けた正しい市 場づくり」「エネルギー のベストミックスに 向けた実現の要請」な どを掲げた大会決議を 採択した。

業界の明るい未来創造へ提言

全日電工連

沖縄で第32回電気工事業全国大会

電気工事業界は、国民生活や産業基盤のインフラを支える電気を安全・安心にお届けするという社会の負託に応えることをモットーとして活動している。昨今、自然災害が多発する中、社会の信頼を高めるためにも今まで以上に社会貢献に努めている。

電気工事業全国大会は、これからの電気工事業の進むべき指針を確認する機会。開催地においては、広く地域の皆さまに街の電気トクターを自指す電気工事業界への理解と認識を深めて頂く機会にしたい。

今回の大会のメインテーマに「ゆいまーるの心を琉球の風に乗せて・輝く未来の電気工事業を創造しよう!」を掲げ、全日電工連近未来ビジョン、全国青



会長 米沢 寛氏

大会あいさつ

年部提言書から喫緊の課題をテーマに絞り、ビジョンの具現化に向けた提言を行う。

前日には600人近い会員の皆さんで意見交換を行った。社会の急激な変化や技術革新が進む中、先頭を立つて素早く対応し行動する組織を目指す。その行動する強い組織づくりを目指した優良事業工組表彰制度には、全国工組から多数の応募があった。慎重審査の結果、全日電工連には18事業が推薦され、表彰審査会で各賞を選定した。

変化に積極的対応 原子力早期稼働を

ついでに、原子力発電の早期稼働を促す。現在の稼働率はわずか7%。現在稼働中の5基のプラントに続き、安全審査を合格した原子力の早期稼働とエネルギー基本計画の電源構成の早期実現を切に願っている。

また、スマート社会構築やEMS(エネルギー管理システム)など、高度化・多様化する社会のニーズに対応するため、お客さまの要望に適切に対応し素早く行動する組織づくりも当面する課題と考える。こうした観点から、従来にも増して営業の拡大強化が必須だ。

この度、製造・販売・工事業が三位一体となりAI・IoTの有効活用を図り、「新しい電気のカラチを提案すべく、スマートパワーネットワーク活動」を展開することになった。

全国青年部については、人材育成・人材確保の観点から電気関係教育・訓練機関の指導者、生徒および保護者との交流を行う。交流会の意見から工組主催の初心者研修会立ち上げや、雇用環境改善ガイドブックを発刊するなど、入職者確保のための格好の機会となつている。今年度から非電気系入職者の早期職力化対策、非電気系学科の生徒との交流会の拡大を目指すなど、積極的な事業展開を期待している。

いつの時代にあつても時代の変化を的確に捉え、将来を見据えた組織の改革・人材の登用は大きな課題だ。青年部の皆さんには一層の活躍を期待している。

急激に変化する時代の中で、直ちに解決できる課題ばかりではない。信念と情熱、スピード感を持って、社会の情勢を見ながら積極的な対応をしていく。

全日本電気工業事業組合連合会(米沢寛会長)は11月14日、沖縄県宜野湾市で第32回電気工業事業全国大会を開催した。「ゆいまーるの心を琉球の風に乘せて・輝く未来の電気工業事業を創造しよう」をメインテーマに、全国の組合員や来賓ら1500人以上が出席。「エネルギーのベストミックスに向けた実現の要請」などを掲げた大会決議を採択した。大会前日には意見交換会を行うとともに、式典の前には「組合活性化研修会」を初開催。その他、メーカー28社・39ブースが出展した展不会も併催された。



人材育成、スマート化、将来像 約600人が活発に討論

大会前日の11月13日、全国から集まった組合員たちが①人材確保・育成策のスマート化を見据えた組合員への支援制度②電気工業者としてのありたい姿③の3テーマに分かれて意見交換会を行った。約600人が7〜9人ずつテーブルに分かれて、独自の取り組みや共通の悩みなどをぶつけ合い、活発に討論し電気業界の進むべき方向を探った。翌14日の式典で、意見交換会で集約された意見を発表した。

全日本電気工業事業組合連合会は来年、設立60周年、全日電工連の60周年、70周年に向けた「近未来ビジョン」と「青年部提言書2016」を策定。さ組合員約800人が3テーマに分かれて討論会を行った意見交換会

大会前日の11月13日、これらの具現化策・実行体制を明確にするためのビジョン・育成・支援制度の整備が必要と訴えた。この他、中小生への出前授業などを通じた人材育成の必要性も説いた。

②に関して、人知能(AI)やIoT(モノのインターネット)を耳にする機会が増えたものの、「難しく不安」などの声があった。一方、人材不足解消や効率化などにも活用できることから、AI・IoT活用の講習会や技術面への導入に際しての支援などを求めた。スマート社会はヒントやキーワードを提供してくれるが、「提供されたものを活用し決断するのは我々」とまとめた。

③では、電気工業者の今を考察した結果を踏まえ、目指すべき未来に必要なこととして3点を指摘。1つ目は、技能競技大会や技術提案プレゼンテーションの場の提供など、技術力の向上を挙げた。2つ目は、街の電気不足解消や効率化などにも活用できることから、AI・IoT活用の講習会や技術面への導入に際しての支援などを求めた。スマート社会はヒントやキーワードを提供してくれるが、「提供されたものを活用し決断するのは我々」とまとめた。

3つ目は、経営の安定化。経営の安定な定額、経費の安定な定額、適正賃金確保、若手技術者の確保は、若手技術者の確保は、きかないと強調。経営者は法律を順守し、資費向上を目指して経営安定化を目標とするという結論に至った。

意見交換会で集約された意見は、ビジョン具現化チームでの審議に反映する。

組織活性化に向け初の研修会

優良事業を水平展開

今大会では、工組財源確保の参考となる事業および情報提供の機会にする場として「組合活性化研修会」を初開催した。第3回優良事業工組表彰エントリ増強、メリット提供

18事業と、昨年度実施した第2回青年部優良活動発表会12事業の中から6件について、①組合力強化の業界理解促進の組合員・優良事業工組表彰にエントリのあった18事業の中から、滋賀県電気工業事業組合の「給付型奨学金交付事業」が金賞を獲得した。同事業は、将来の電気工業業界の活性化や担い手育成を目的に、県内工業高校の電気科で学ぶ生徒を対象に返済不要の給付型奨学金を支給するもの。一般的に学費支援という形ではなく、資格取得費などに充てることを主眼に置いている。

そのため、給付額は年間6万円、応募資格も所得制限などを設けず、要件を緩和した。全日制、定時制を問わず、給付対象としているのも特徴だ。

実施するに当たり、県教育委員会などと協議を重ね、申請書を簡略化するなど手続きの煩雑さを解消。募集期間を学校行事が集中する4月を外し6月にするなど、周知方法にも工夫を凝らした。

【特別賞】▽共同購買事業(埼玉真電気工業組合)▽共同購買事業(埼玉真電気工業組合)▽埼玉県工業高校生ものづくりコンテストにおける審査員(競技用資材)賞品など、全面的支援など教育機関との関連事業(埼玉真電気工業組合青年部)